

# 瀬戸JC賞 受賞者ご紹介



(いちおしげひこ)

## 一尾 茂足 さん



塾講師志望だったが、社会経験の必要性を感じ、関西大手チェーンストア、外資系医療機器メーカーに勤務。学力と同様に「人間力」の大切さを痛感。

その後、地元トップ高校に多くの合格者を輩出する進学塾、きめ細やかなサポートで一人ひとりを志望校合格へ導く個別指導塾、グローバルな進学選択を可能にする海外大学進学準備校での経験を経て、勉強を通して人間力を育成する方針を固め、アドラー心理学、キャリアカウンセリング、NLP、マインドマップなど、さまざまな分野から子どものためになるエッセンスを吸収し、2009年に独立開業。

2014年に、教育機会確保法の趣旨に沿った全日制のスクールである「市民立小中高一貫校『瀬戸ツクルスクール』」を開校(定員80名)、多くの小中学生が「ここで考えて、自己決定をして、無いものは作りながら日々を過ごす」ことで自ら考え、学び、生き抜く力を育てている。

※高等部の名称は「瀬戸プラクティカルカレッジ」

1975年 愛知県生まれ 瀬戸市在住  
愛知県立松蔭高等学校卒業(サッカー部所属 全国大会出場)  
関西外国語大学 外国語学部 英米語学科 卒業  
せと・しごと塾 一期生  
瀬戸市教育アクションプラン推進会議委員  
市民立小中高一貫校「瀬戸ツクルスクール」運営責任者



一尾さんが運営する  
瀬戸ツクルスクールの  
公式SNSはこちら!



## 市民立小中高一貫校 「瀬戸ツクルスクール」での取組の内容



瀬戸市の教育理念と教育方針、自ら考え、学び、生き抜く力【自立・協働・挑戦・共生・創造】を育む「瀬戸ツクルスクール」。アドラー心理学の「Gemeinschaftsgefühl(ゲマインシャフトゲフル) (共同体感覚)」、「自分の利益のためだけに行動するのではなく、自分の行動がより大きな共同体のためにもなるように行動する」という考え方を大事にして、子どもと同じ目線で向き合い、子どもの自信と力を伸ばすために様々な取組を実施されています。以下にその一部をご紹介します。



スクールミーティング

自分たちのことを自分たちで話し合い、決める。子どもたちが自己決定する回数は多い。



課外活動

毎週ファームデイ、パークデイなどの校舎を出た取組も実施。



学生による昼食作り

自分たちで決められた予算のなかで、何を食べるか考え、買い出しに行く。昼食づくりを通じて生きる力を育む。